

Profile
プロフィール



苫小牧市公式キャラクター
とまこま
©2011 苫小牧市

名前 とまこま

名前の由来は、とまこまの「とま」、ハクチョウの「チョ」、ハナショウブの「ヨ」、ホッキ貝の「ッ」、ハスカップの「ップ」の組み合わせから。

役職 苫小牧市の観光大使・副市長

趣味 スケート、旅行

生誕地 苫小牧市ウトナイ湖周辺

特技 チョップ

性別 不明

将来の夢 苫小牧市長になること

誕生日 8月22日(苫小牧市の徽章制定日と同じ)

公式サイト「とまこまの部屋」

とまこまのことがまるわかり!!

とまこまのブログ

とまこまのInstagram

とまこまのTwitter



苫小牧市の情報はここから!

LINE QR code

Facebook QR code

YouTube QR code

TV地デジ QR code

苫小牧市勢要覧

TOMAKOMAI City Directory

発行:北海道苫小牧市 2022年10月
企画・編集:苫小牧市総合政策部政策推進室秘書広報課
〒053-8722
北海道苫小牧市旭町4丁目5番6号
TEL.0144-32-6108
<https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/>
印刷:株式会社 須田製版



とまこま
苫小牧市勢要覧
TOMAKOMAI City Directory

人間環境都市を目指して

太平洋に臨む苫小牧は、16万8千人が暮らす、北海道で4番目に人口が多い都市です。国際拠点港湾である「苫小牧港」と北海道の空の玄関口「新千歳空港」のダブルポートを擁する交通の要衝として、多様な産業が集積しており、北海道をけん引する産業拠点都市として発展する活気みなぎるまちです。

一方で、活火山でありながら登山で人気の樽前山やラムサール条約登録湿地のウトナイ湖など、自然が豊かであり、夏は冷涼、冬は雪が少ないという気候とあわせ、大変暮らしやすいまちでもあります。

また、このような自然環境を後世に残すべく、地球温暖化対策の一つとして、CCS大規模実証実験（CO₂の分離・回収、圧入、貯留、モニタリング）に着手するなど全国に先駆けて脱炭素化に取り組んでおり、2021年には改めてゼロカーボンシティ宣言を行い、産業界を含め、まちをあげてその取り組みを強化しているところです。

私たちのまち苫小牧は、1973年に「人間環境都市」を宣言しています。人間主体のまちであることを前提に、快適な環境の中で、共に生き生きと暮らしながら、全ての市民が持てる能力で社会に貢献し、未来に向かって挑戦を続けることを目指してまちづくりを進めています。

この市勢要覧を通じて、苫小牧の現在に触れ、まちづくりの方向性を知っていただき、より苫小牧を身近に感じていただければ幸いです。



Tomakomai, a city facing the Pacific Ocean, has a population of 168,000, the fourth largest in Hokkaido. "The Double Port" - "Tomakomai Port" and "New Chitose Airport", both known as the gateway to the marine/air transportation -- makes this city an important transportation hub. Tomakomai is developing and leading Hokkaido as an energetic industrial base which accommodates diverse industries.

On the other hand, Tomakomai boasts wealthy natural environments. For example, Mt. Tarumae is an active volcano but popular for mountaineering, and Lake Utonai is a Ramsar site. In addition, Tomakomai is a very comfortable city to live in, with its cool summer and winter with little snow.

To preserve this natural environment for future generations, we have been working on decarbonization ahead of the rest of Japan. We started large-scale CCS demonstration experiments (separation and capture, injection, storage and monitoring of carbon dioxide) as one of the measures against global warming and declared a zero-carbon city in 2021. The entire city, including industrial circles, is stepping up its efforts toward zero carbon.

Tomakomai declared itself a "Human Environment City" in 1973. In addition to being human-centered, we are trying to create a city where all citizens can live actively together in a comfortable environment, contribute to society according to their capability, and take on challenges toward the future.

We hope that this booklet will help you understand the present situation and direction of development of Tomakomai and make you feel closer to our city.

苫小牧市は太平洋に臨み、16万8千人が暮らす、北海道人口第四大の都市です。国際拠点港湾「苫小牧港」と北海道の空の玄関口「新千歳空港」のダブルポートを擁する交通の要衝として、多様な産業が集積し、北海道をけん引する産業拠点都市として発展する活気みなぎるまちです。

一方で、活火山でありながら登山で人気の樽前山やラムサール条約登録湿地のウトナイ湖など、自然が豊かで、夏は涼しく、冬は雪が少ないという気候とあわせ、大変暮らしやすいまちでもあります。

また、このような自然環境を後世に残すべく、地球温暖化対策の一つとして、CCS大規模実証実験（CO₂の分離・回収、圧入、貯留、モニタリング）に着手するなど全国に先駆けて脱炭素化に取り組んでおり、2021年には改めてゼロカーボンシティ宣言を行い、産業界を含め、まちをあげてその取り組みを強化しているところです。

私たちのまち苫小牧は、1973年に「人間環境都市」を宣言しています。人間主体のまちであることを前提に、快適な環境の中で、共に生き生きと暮らしながら、全ての市民が持てる能力で社会に貢献し、未来に向かって挑戦を続けることを目指してまちづくりを進めています。

この市勢要覧を通じて、苫小牧の現在に触れ、まちづくりの方向性を知っていただき、より苫小牧を身近に感じていただければ幸いです。

Tomakomai nằm hướng ra Thái Bình Dương, và là thành phố đông dân thứ 4 ở Hokkaido với dân số là 168.000 người. Thành phố là một trung tâm giao thông quan trọng với cảng đôi là "Cảng Tomakomai" - cảng trung tâm quốc tế, và "Sân bay Chitose mới" - cửa ngõ hàng không của Hokkaido. Vì vậy, nơi đây tập trung nhiều ngành công nghiệp khác nhau, và là một thành phố đầy năng động, phát triển, được xem như một thành phố trung tâm công nghiệp dẫn đầu Hokkaido.

Mặt khác, nơi đây còn có thiên nhiên phong phú, với ngọn núi Tarumae nổi tiếng thu hút nhiều người đến leo núi dù nó là ngọn núi lửa đang hoạt động, hay hồ Utonai là vùng đất ngập nước đã được đăng ký theo công ước Ramsar. Với khí hậu mát mẻ vào mùa hè và ít tuyết vào mùa đông, thành phố cũng là nơi sinh sống vô cùng dễ chịu.

Ngoài ra, nhằm để lại môi trường tự nhiên như vậy cho các thế hệ sau, và để chống lại sự nóng lên của trái đất, thành phố đã đi tiên phong trên cả nước trong việc nỗ lực khử cacbon như bắt đầu thử nghiệm chứng thực quy mô lớn CCS (phân tách, thu gom, bơm vào và lưu trữ, giảm phát CO₂) và vào năm Reiwa 3 (tức năm 2021), thành phố một lần nữa tuyên bố là "Thành phố không cacbon", và toàn bộ thành phố gồm giới công nghiệp đã tăng cường nỗ lực để thực hiện điều đó.

Thành phố Tomakomai của chúng tôi đã tuyên bố là "Thành phố vì môi trường và con người" vào năm Showa 48 (tức năm 1973). Với tiền đề là lấy con người làm trung tâm, chúng tôi đang sinh sống cùng với nhau một cách vui vẻ và khỏe mạnh trong một môi trường thoải mái, đồng thời hướng đến mục tiêu đóng góp cho xã hội bằng khả năng của tất cả người dân, tiếp tục đương đầu với các thử thách để hướng tới tương lai và tiến tới xây dựng thành phố.

Chúng tôi hy vọng rằng thông qua cuốn sổ tay giới thiệu khái quát về thành phố này, quý vị sẽ biết đến Tomakomai của hôm nay, từ đó hiểu được phương hướng phát triển của thành phố và cảm thấy gần gũi hơn với Tomakomai.



Contents

- 1 市長あいさつ
- 2 苫小牧市の概要
- 3 北海道を支える産業拠点都市
- 4 自然環境と気候
- 5 支え合い 助け合う「ふくし」のまち
- 6 暮らしやすいまち
- 7 見る。遊ぶ。味わう。苫小牧
- 8 観光客のまち
- 9 みんなが暮らしやすいまち
- 10 暮らしの安全
- 11 山、湖、豊かな自然環境
- 12 スポーツのまち 苫小牧
- 13 苫小牧市のあゆみ

苫小牧市の概要

市名の由来

かつて、苫小牧川が流れる一帯を当時の河川名であったマコマイ（アイヌ語で「山奥に入っていく川」）と呼んでいました。沼のあった旧樽前山神社付近（現・矢代町）一帯はアイヌ語で沼の意味がある「ト」の字をつけて「ト・マコマイ」と呼ばれるようになり、今日の「苫小牧」になりました。

苫小牧市民憲章 [昭和60年9月27日制定]

あたたかい心でまちを つつみましよう
 学びあいつくるよるこびを そだてましよう
 花と木のかおりでまちを みたしましよう
 さわやかな笑顔でまじりを まもりましよう
 生き生きとくらす力を のばしましよう

苫小牧市徽章 [昭和24年8月22日制定]



苫小牧を片仮名のトマコマイとし、「ト」と「マ」を周囲にとり、「コマ」は全体を通して独楽を圖案化し、「ト」の字を「イ」とも読ませて市名に通じさせています。

苫小牧市のシンボル



市の木 ナナカマド (昭和48年3月15日制定)



市の木の花 ハスカップ (昭和61年9月27日制定)



市の草の花 ハナショウブ (昭和61年9月27日制定)



市の鳥 ハクチョウ (平成2年9月23日制定)



市の貝 ホッキ貝 (平成14年7月20日制定)

姉妹都市と友好都市



東京都八王子市 昭和48年(1973年)8月10日盟約



栃木県日光市 昭和57年(1982年)4月16日盟約 平成18年(2006年)10月1日再盟約



ニュージーランド ネーピア市 昭和55年(1980年)4月22日盟約



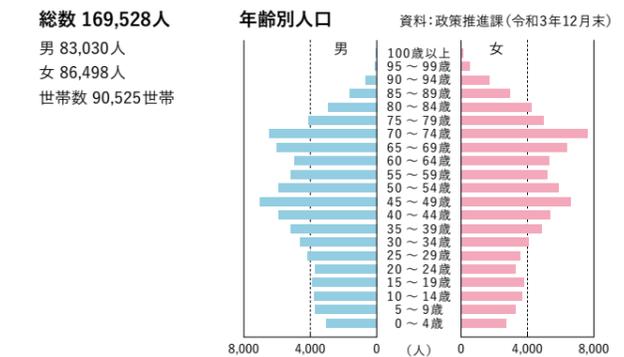
中国秦皇島市 平成10年(1998年)9月1日盟約

数字で見る苫小牧

統計からみた市民の暮らし (資料: 苫小牧市統計書 令和3年版)



人口 (令和3年12月31日現在 住民基本台帳)



北海道を支える産業拠点都市

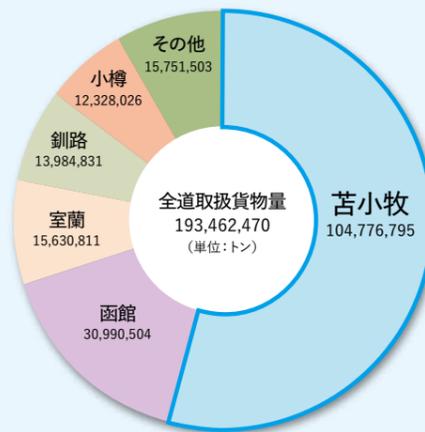
Industrial base supporting Hokkaido
支那北海道的产业中心城市
Thành phố trung tâm công nghiệp hỗ trợ cho Hokkaido



海と空で世界を結ぶダブルポート

国際拠点港湾 苫小牧港

苫小牧港は、北海道の海の玄関として、カーフェリー、RORO船、内外航定期コンテナ船など、多数の航路を有し、国内屈指の流通拠点港湾として、大きな役割を果たしています。海上出入貨物量は、北海道全体の約半分を苫小牧港が担っています。



海上出入貨物量
全道1位
全国3位

資料: 苫小牧港管理組合 (令和3年港湾統計)

北海道の空の玄関 新千歳空港

国内外各地と北海道を結ぶ「新千歳空港」は、千歳市と苫小牧市にまたがり、近年は国際線の充実により、外国人観光客も多くなりました。苫小牧市街から空港までのアクセスは約30分と、苫小牧と海外の距離も近くなっています。



工業

紙のまち

市内中心部にそびえ立つ、製紙工場の煙突は苫小牧のシンボル。まちの起源である製紙業により、「紙のまち」として栄えてきました。



多様な産業の集積地

火力発電所、石油備蓄基地をはじめとするエネルギー関連や医療機器工場など、多様な企業が立地。近年では植物工場などの食品関連企業の進出も相次いでいます。



自動車関連産業

大手自動車メーカーの工場進出を機に、自動車関連企業が相次いで進出し、産業の集積が進んでいます。



日本初! CCS大規模実証実験

苫小牧市では、日本初となるCCS※の大規模実証試験(CO₂の分離・回収、圧入、貯留、モニタリング)が国家プロジェクトとして実施されています。(2022年9月現在)

※CCSとは、発電所や工場などから排出されるCO₂を含んだガスから、CO₂を分離・回収して地中に送り込み、地下深くの安定した地層の中に貯めることで、大気中に放出されるCO₂を減らす技術のこと



農・水産業

ホッキ貝、漁獲量21年連続日本一

漁業はホッキガイ桁網、カレイ刺し網、スケトウダラ刺し網、サケ定置網漁業などが行われています。中でも全国一の水揚げを誇る「ホッキ貝」は年間の漁獲量が約800トンと、21年連続(2000~2020年)日本一を誇っています。



東部と西部で盛んな農業

西部の樽前地区では、樽前山に由来する火山砂れきに覆われているため、農地のほとんどは牧草地となっていることから、畜産業者が多くいます。また、寒暖の差や積雪量が少ないという気候をいかし、ビニールハウスを利用して野菜などを栽培する施設園芸の開発や新規参入が多くなっています。



アクセス抜群の「ダブルポートシティ」

苫小牧から車で
新千歳空港まで……約30分
札幌まで……約60分
(苫小牧中央IC~札幌南IC利用時)

苫小牧港からフェリーで
国内
八戸まで……約8時間
大洗まで……約19時間
仙台まで……約15時間 など

新千歳空港から飛行機で
国内線
東京まで……約95分
名古屋まで……約110分
大阪まで……約140分
福岡まで……約165分 など

国際線
韓国・ソウルまで……約175分
台湾・台北まで……約280分
中国・北京まで……約285分
ハワイ・ホノルルまで……約7時間
タイ・バンコクまで……約8時間 など



City of welfare where people support and help one another
互相支持互相帮助的“福利”城市

Thành phố có “Fukushi (tương thân tương ái, đầy đủ phúc lợi)”
nơi mọi người giúp đỡ, hỗ trợ lẫn nhau



福祉と“ふくし”

困っている人を助けようとする素直な心、人のために役に立とうとする前向きな行動、自分のできる範囲で支えようとするさりげない気持ち。苫小牧市では、制度上の表現での“福祉”とは区別して、こうした心遣いをひらがなで“ふくし”と表現しています。



福祉

とまこまい医療介護連携センター

高齢者がいつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、在宅医療などの相談や在宅医療を進める体制作りなどを行っています。

地域包括支援センター（とまほっと）

市内には7カ所の地域包括支援センターがあり、介護に関する困りごとや認知症に関することなど、生活のさまざまな相談に応じ、高齢者やその家族をサポートしています。

福祉ふれあいセンター

障がい者などの福祉の増進および社会参加の促進を図るため、発達に遅れの見られる児童の相談・療育支援などを行ったり、障がい者に対する活動の場を提供しています。

ふくし総合相談窓口

市役所の窓口では、「どこに相談してよいのか分からない悩み事・困り事」を幅広くお受けしています。



サポーター養成事業

ちょっとした心遣いを行動に移していただく環境づくりに向けて、各種事業に取り組んでいます。



あいサポート
研修



認知症サポーター
養成講座

福祉トイレカー「とまレット」

障がいのある方や高齢者などの車いす利用者が、外出時に安心してトイレができるよう、市内の主要イベントなどに出動し、支援を行います。



ふくし関連イベント

ライト・イット・アップ・ブルー（自閉症啓発運動）



リレー・フォー・ライフ（がん患者支援運動）



RUN伴（認知症啓発運動）



健康

質の高い医療サービスの提供

東胆振の中核である苫小牧には、苫小牧市立病院と王子総合病院の2つの広域中核病院をはじめ、180を超える医療機関があります。近隣自治体からの利用者も多く、地域医療を支えています。



充実した保健事業

健康診断やがん検診（胃・肺・大腸・子宮・乳）、歯周病検診やエキノコックス症検診など、ご自身の健康状態をより知っていただくための保健事業が充実しています。また、40歳以上の国保・後期高齢者医療制度の加入者を対象に、健康診査と胃・肺・大腸がん検診が無料で受けられる「タダとく健診」や、30歳以上の国保の加入者を対象に「プレ特定健診」を実施し、病気の早期発見・予防の強化に努めています。

子育て

子育て支援センター

親子で遊んだり、利用者間の交流の場としてプレイルームの開放や、子育ての不安や悩みなどの相談、各家庭に応じた保育サービスの情報提供を行っています。また、市内にはほかに4カ所の子育てルームがあり、毎月各種イベントが開催され、親子のふれあいの場となっています。



児童センター

市内には7カ所の児童センターがあり、子ども同士の遊び場、親同士の交流の場として利用でき、子育ての相談窓口にもなっています。

ファミリー・サポート・センター

子育ての援助を行いたい人と、受けたい人で会員組織をつくり、安心して子育てできる環境づくりをサポートしています。

ふくし大作戦

これまで4回にわたり「ふくし大作戦」を実施し、ふくしのこころ・ふくしの気持ちと向きあって行動し、住みやすい、笑顔あふれるふくしのまちを目指して、さまざまな事業を展開してきました。



見る。遊ぶ。味わう。苦小牧



見る

工場夜景

市内各所には、工場夜景を楽しめるスポットが数多くあります。



晴海公園



東港国際コンテナターミナル



フェリーターミナル&入船公園



真砂町

錦大沼ハナショウブ園

市の草の花にも制定されている「ハナショウブ」を楽しむことができます。



美術博物館(あみゅー)

年間を通してさまざまな展示会が開催され、自然・歴史・考古資料や美術作品を収蔵・展示しています。



緑ヶ丘公園展望台

展望台からは、樽前山麓の広大な自然がおりなす風景と、市内の街並みを一望することができます。また、夜景スポットとしても人気です。



科学センター

世界に1機しかない宇宙ステーション「ミール」を見学でき、太陽光発電学習コーナーなど科学に関する展示や、プラネタリウムがあります。



遊ぶ

ノーザンホースパーク

1年を通して馬とふれあえるテーマパーク。乗馬体験や観光馬車、ポニーショーをはじめ、サイクリングや各種スポーツなどのアウトドアアクティビティも楽しめます。



イコロの森

北国ならではの11のガーデンをくつろぎながら楽しむことができます。



オートリゾート苦小牧 アルテン

キャンプサイト・コテージ・温泉・パークゴルフなど充実した施設を備えたオートキャンプ場です。電源付きサイトやコテージ・温泉・バーベキューコーナーでは、Wi-Fiが完備されています。



味わう

ぷらっとみなと市場

苦小牧の新鮮な海産物・食材が集結。食堂街もあり、旬の味覚がまるごと楽しめます。



ホッキカレー

苦小牧のソウルフード「ホッキカレー」を求めて、市内外の多くの人が食堂に列をなす光景は、すっかりお馴染みとなりました。



カレーラーメン

文化庁が取り組みを進める「100年フード」に、とまこまいカレーラーメン振興局が申請した「とまこまいカレーラーメン」が認定されました。

ハスカップ

市の木の花にも制定されている「ハスカップ」を使った加工品は、お土産の定番としても定着しています。



道の駅ウトナイ湖

苦小牧のさまざまな名産・特産品が販売されています。



一年中
お祭りがある!!

夏と冬の2大祭りをはじめ、一年を通してさまざまなお祭りが開催されます!

<p>5月</p> <p>緑ヶ丘公園まつり</p>	<p>7月下旬</p> <p>苦小牧アートフェスティバル</p>	<p>8月</p> <p>とまこまい港まつり</p>
<p>9月</p> <p>たるまえサンフェスティバル</p>	<p>10月</p> <p>苦小牧漁港ホッキまつり</p>	<p>11月</p> <p>とまこまいコスプレフェスタ</p>
<p>2月</p> <p>とまこまいスケートまつり</p>		

Sightseeing, leisure and gourmet foods in Tomakomai
観光。游玩。美食。苦小牧
Ngắm nhìn. Vui chơi. Thường thức. Tomakomai

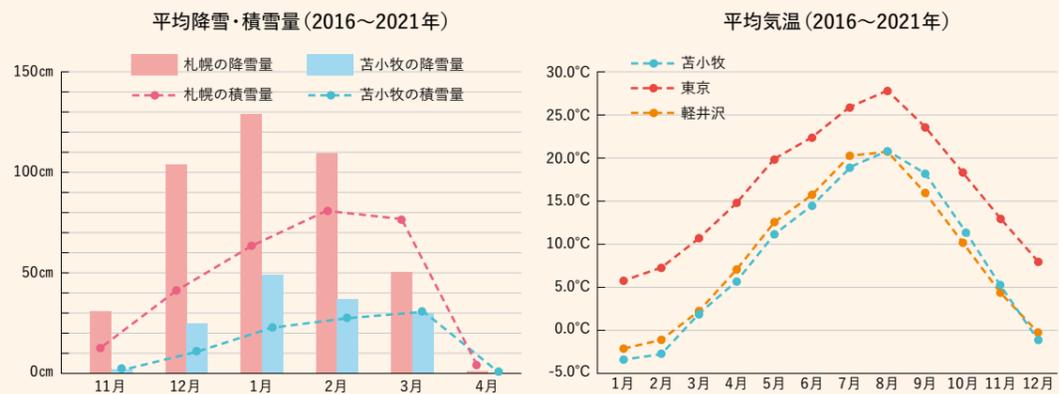




暮らしして実感「住みよいまち」

快適な気候

北海道の都市の中でも比較的降雪・積雪が少なく、気温は避暑地として有名な軽井沢と年間を通してほぼ同じとなっています。



利便性の高い生活環境

市内には大型ショッピングモールがあり、ホームセンターやドラッグストア、コンビニエンスストアも点在しています。駐車場を備えている病院やスーパーが多く、自家用車での移動が便利です。



外国人も暮らしやすい

日常生活の困りごとについて、多言語で相談を受け付けています。また、ボランティアによる日本語教室も行っています。



市役所国際交流サロン 日本語教室の様子

万全な防災対策

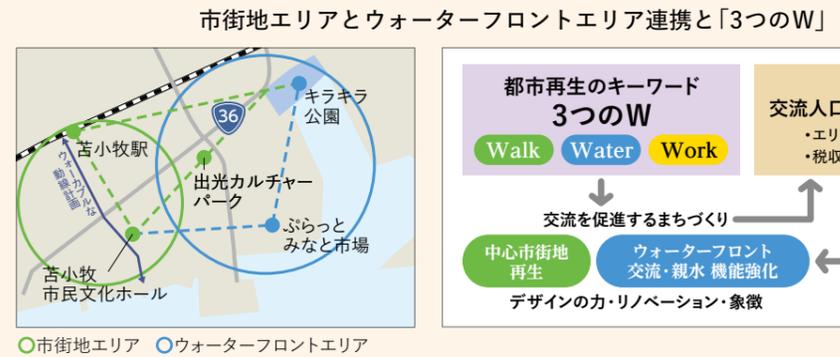
万が一の火山噴火、地震、津波などの自然災害に備え、総合防災訓練の実施や防災ハンドブック、さまざまなツールを活用した情報発信など、日頃からあらゆる防災対策を行っています。



これからのまちづくり

苫小牧都市再生コンセプトプラン

ものづくり産業のさらなる展開、臨海ゾーンにおけるロジスティクスの展開、臨空ゾーンにおける国際リゾートの展開というダブルポートシティの特性を生かした成長戦略を掲げており、これらの方向性を示す「苫小牧都市再生コンセプトプラン」を2021年3月に策定しました。



中心市街地



シンボルストリート



西港北ふ頭エリア

〈イメージパース〉

苫小牧市民文化ホール

文化・芸術に係る活動と交流を振興する新たな拠点「サードプレイス」となる「苫小牧市民文化ホール」が、2026年3月に開業予定です。



外観のイメージ図

ワーケーションの取り組み

市内にワーケーション拠点を整備し、交流人口や関係人口の拡大に繋げる取り組みを行っています。



男女平等参画宣言都市とまこまい

2013年に「男女平等参画都市宣言」を行いました。

一人ひとりのライフスタイルが変化中、世代や性別を超えて、誰もが輝ける社会の実現を目指しています。



日本女性会議2017 とまこまい開催 (2017年)



第1回市長とジェンダーミーティング (2022年)



山、湖、豊かな自然環境

自然

ウトナイ湖

動植物の宝庫、野鳥の楽園ともいわれるウトナイ湖は1991年にラムサール条約登録湿地となりました。現在までに270種を超える野鳥が確認されており、バードウォッチングのスポットとしても有名です。



オオハクチョウ

■ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

野生鳥獣が安心して生息できるよう、環境の整備や傷病鳥獣の救護などを行っています。また、環境教育やイベントなども実施しています。



メジロ



エナガ(シマエナガ)



アカゲラ



樽前山

樽前山は、北海道の天然記念物に指定されている溶岩円頂丘(ドーム)を持った、世界的にも珍しい三重式火山です。市内から七合目ヒュッテまでは車で約60分、七合目から頂上までは徒歩で約50分で登ることができます。

環境

ゼロカーボンシティへの挑戦

2021年8月、2050年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言しました。



053(ゼロごみ)のまち

これまで5回にわたり「053大作戦」を実施し、ごみの減量やリサイクルの推進など、さまざまなアプローチで「053(ゼロごみ)のまち 苦小牧」に、まちぐるみでチャレンジしています。

※053(ゼロごみ)は、苦小牧の郵便番号にちなんで「053」が環境標語になったものです。



苦小牧のおいしい水「とまチョップ水」

「とまチョップ水」は、モンドセレクション2022において連続金賞を受賞し、国際的に品質が認められました。水道水のおいしさの秘密は、樽前山麓の豊かな森林と砂れきなどによる天然で精美なる過によって、炭酸ガスや豊富なミネラルが与えられるから。生活に欠かせない水道水は、安全・安心でおいしいものが良いですね。



氷都とまこまい

昔から「スケートのまち」として知られている苦小牧。スケート競技の中でも「アイスホッケー」は、苦小牧を拠点とする「レッドイーグルス北海道」があり、アイスホッケー女子日本代表「スマイルジャパン」のメンバーには苦小牧ゆかりの選手が多く選出されています。

また、「全国高等学校選抜アイスホッケー大会(氷上の甲子園)」の開催地でもあります。



■スケート施設



白鳥王子アイスアリーナ ダイナックス沼ノ端アイスアリーナ 新ときわスケートセンター ときわスケートセンター ハイランドスポーツセンター

スポーツ都市宣言

1966年に苦小牧市は全国で初めて「スポーツ都市宣言」を行いました。この宣言以降、年代問わず多くの方が、さまざまなスポーツを楽しんでいます。



近年の苦小牧ゆかりのオリンピックメダリスト



丹羽 孝希 選手
(苦小牧市出身)
リオデジャネイロオリンピック(2016)
卓球男子団体 銀メダル
東京2020オリンピック
卓球男子団体 銅メダル



開心那 選手
(苦小牧市在住)
東京2020オリンピック
スケートボード女子パーク
銀メダル



田中 将大 選手
(駒澤大学附属苦小牧高等学校出身)
東京2020オリンピック
野球日本代表
金メダル



伊藤 大海 選手
(苦小牧駒澤大学出身 ※現・北洋大学)
東京2020オリンピック
野球日本代表
金メダル

Wealthy natural environment with mountains and lakes

山、湖、豊富な自然環境

Môi trường thiên nhiên phong phú với núi và hồ



Tomakomai, a city of sports

运动之城苦小牧

Thành phố của thể thao Tomakomai





苦小牧市のあゆみ

History of Tomakomai City
苦小牧市の歴史
Lịch sử phát triển của thành phố Tomakomai

寛政11(1799)年

勇払に会所を置く

寛政12(1800)年

八王子千人同心、原新介ら勇払(鷓川)に移住する

明治2(1869)年

蝦夷地を北海道と改め、当地方は、胆振国勇払郡となる

明治3(1870)年

高知藩70余名を勇払千歳に派遣、分領支配と開拓を始める

明治5(1872)年

開拓使と高知藩の事務引継ぎ完了し、高知藩引揚げる

明治6(1873)年

勇払郡開拓使出張所を吉細(苦小牧)に移転

明治7(1874)年

吉細を苦小牧と改名

明治13(1880)年

勇払外五郡郡役所(勇払・白老・千歳・沙流・新冠・静内)を苦小牧村に設置

明治22(1889)年

苦小牧村に、苦小牧外15ヶ村戸長役場を設ける(初代戸長原直次郎氏)

明治25(1892)年

国鉄室蘭本線が開通。苦小牧駅が開業

明治35(1902)年

2級町村制を施行し樽前村、覚生村、錦多峰村、小糸魚村、苦小牧村、勇払村、植苗村を合併し、苦小牧村となる(初代村長山崎初吉氏)

明治42(1909)年

樽前山大噴火

明治43(1910)年

王子製紙苦小牧工場が操業開始

大正7(1918)年

2級町村制のまま町制施行(初代町長下川重島氏)

大正8(1919)年

1級町村制を施行(二代目町長鈴木善治氏)

大正10(1921)年

苦小牧大火。市街地の約3分の1にあたる1,007戸を消失

大正13(1924)年

北海道庁林千秋技師が「勇払築港論」を提唱

昭和元(1926)年

国鉄千歳線が開通

昭和3(1928)年

飯田誠一氏が三代目町長となる

昭和12(1937)年

町営リンク完成

昭和13(1938)年

八巻耕三氏が四代目町長となる。「工業港苦小牧の将来とその使命」を発行

昭和14(1939)年

翌14年、北海道庁で「勇払工業港修築計画書」を策定。

昭和15(1940)年

翌15年、「苦小牧工業地帯計画」を策定

昭和16(1941)年

第11回明治神宮国民体育大会冬季大会スケート大会開催

昭和18(1943)年

大日本再生製紙(現日本製紙)勇払工場操業開始

昭和21(1946)年

西田信一氏が五代目町長となる。苦小牧町立病院開設

昭和22(1947)年

初の町長公選行われる(田中正太郎氏当選)

昭和23(1948)年

市制施行(初代市長田中正太郎氏/人口33,000人)

昭和24(1949)年

苦小牧市徽章制定

昭和25(1950)年

第5回国国民体育大会開催(スケート) / 市広報紙刊行 / 上水道敷設工事開始 / 市営バス運行開始 / 第1回観光まつり(港まつりの前身)開催

昭和26(1951)年

苦小牧工業港起工式

昭和27(1952)年

下水道工事着手 / 市教育委員会発足 / 市庁舎新築

昭和29(1954)年

第9回国国民体育大会開催(柔道)

昭和31(1956)年

第1回港まつり開催

昭和33(1958)年

王子製紙無期限ストに突入 / 苦小牧港開発株式会社設立

昭和38(1963)年

苦小牧港開港 / 大泉源郎氏が二代目市長に就任

昭和40(1965)年

苦小牧港管理組合発足 / 苦小牧駒澤短期大学開校

昭和41(1966)年

苦小牧市スポーツ都市宣言 / 苦小牧港外国貿易港に指定

昭和43(1968)年

西部工業団地進出企業第一号の日の出化学工業株 操業開始

昭和44(1969)年

道の総合開発委員会が苦東大規模工業基地開発計画案を決定

昭和47(1972)年

苦小牧東部開発株式会社設立 / フェリー第1船入港

昭和48(1973)年

市制施行25周年 / 人間環境都市宣言 / 出光興産(株)北海道製油所操業開始 / 八王子市と姉妹都市提携 / 市の木に「ナナカマド」を制定

昭和49(1974)年

第29回国国民体育大会開催(スケート)

昭和51(1976)年

苦小牧東港現地着工

昭和53(1978)年

ネーピア港(ニュージーランド)と姉妹港提携 / 駅前バスターミナル開設

昭和55(1980)年

苦小牧東港入船式一部供用開始 / ネーピア市(ニュージーランド)と姉妹都市提携 / 人口15万人達成 / 第35回国国民体育大会開催(スケート・アイスホッケー)

昭和56(1981)年

苦小牧港が特定重要港湾に昇格 / ウトナイ湖サンクチュアリ指定 / 苦東の国家石油備蓄基地着工

昭和57(1982)年

いすゞ自動車北海道工場が苦東工業基地D地区で建設着工 / 日光市と姉妹都市提携 / 新苦小牧駅完成

昭和58(1983)年

市庁舎完成 / 板谷實氏が三代目市長に就任

昭和59(1984)年

いすゞ自動車(株)北海道工場操業開始 / 国家石油備蓄基地にオイルイン開始

昭和60(1985)年

市民憲章制定 / 中国秦皇島港と友好港湾提携

昭和61(1986)年

市の木の花に「ハスカップ」、草の花に「ハナシヨウブ」を制定 / 旭大通アンダーパス開通

昭和62(1987)年

鳥越忠行氏が四代目市長に就任 / 暴力追放宣言

昭和63(1988)年

道央テクノポリス開発機構設立 / 苦小牧市基本構想改定

平成元(1989)年

道央テクノポリス地域指定 / 人口16万人達成 / 第44回国国民体育大会開催(フェンシング・軟式庭球) / 外国貿易船入港1万隻達成

平成2(1990)年

トヨタ自動車(株)が苦小牧西部工業団地へ立地表明、翌3年5月工場建設に着手 / 市の鳥に「ハクチョウ」を制定

平成3(1991)年

ウトナイ湖と周辺510ヘクタールがラムサール条約登録湿地となる

平成4(1992)年

苦小牧港が動物検疫港に指定 / フェリー旅客1千万人突破

平成5(1993)年

千歳・苦小牧地方3市4町が地方拠点都市に指定される / 市民文化公園完成

平成6(1994)年

トヨタ自動車北海道(株)竣工

平成7(1995)年

天然ガスパイプライン起工式

平成8(1996)年

人口17万人達成 / TSL実験船苦小牧港入港 / スポーツマスター制度実施

平成9(1997)年

白鳥アリーナ完成 / スポーツ都市宣言30周年

平成10(1998)年

入船国際コンテナターミナル完成

平成11(1999)年

市制施行50周年記念式典開催 / 中国秦皇島市と友好都市提携 / 苦小牧駒澤大学開学 / 緑ヶ丘公園展望台オープン / 文化交流センターオープン / 苦小牧市テクノセンターオープン

平成12(2000)年

沼ノ端クリーンセンター・リサイクルプラザ苦小牧オープン / 東港に日本海航路のフェリー就航 / 錦大沼公園と温浴施設「ゆのみ湯」オープン / 宇宙ステーション・ミール展示館オープン

平成13(2001)年

沼ノ端スケートセンターオープン / 市営バス開業50周年

平成14(2002)年

勇武津資料館オープン / 苦小牧市民文化芸術振興条例制定

平成15(2003)年

苦小牧市福祉のまちづくり条例制定 / 苦小牧市非核平和都市条例制定 / 勇払マリーナオープン / 市の貝に「ホッキ貝」を制定 / ウトナイ湖野生鳥獣保護センターオープン / ISO14001の承認を取得

平成16(2004)年

櫻井忠氏が五代目市長に就任

平成17(2005)年

臨海東通アンダーパス開通 / 東港区中央埠頭多目的国際ターミナル第1船入港 / 駒大苦小牧高校全国高等学校野球選手権大会2連覇(87回大会)

平成18(2006)年

岩倉博文氏が六代目市長に就任 / 第61回国国民体育大会開催(スケート・アイスホッケー) / 氷上の甲子園 / 全国高等学校選抜アイスホッケー大会開催 / 駒大苦小牧高校全国高等学校野球選手権大会準優勝 / 新苦小牧市立病院が開院

平成19(2007)年

苦小牧市自治基本条例施行 / 全国植樹祭開催

平成20(2008)年

レジ袋有料化協定締結

平成21(2009)年

苦小牧市市民参加条例施行 / 教育・福祉センターオープン / 道の駅「ウトナイ湖」オープン

平成22(2010)年

廃プラスチック資源回収開始 / 王子製紙(株)苦小牧工場操業100周年 / ネーピア市姉妹都市締結30周年 / 沼ノ端スポーツセンターオープン

平成23(2011)年

苦小牧市公式キャラクター「とまチョップ」誕生 / ウトナイ湖ラムサール条約湿地登録20周年

平成24(2012)年

苦小牧市非核平和都市条例制定10周年

平成25(2013)年

苦小牧港開港50周年 / 家庭ごみ有料化開始 / 美術博物館オープン / 苦小牧市男女平等参画都市宣言

平成26(2014)年

東胆振1市4町による定住自立圏構想中心市宣言 / 新とまチョップセンターオープン / まちなかの新たな集客拠点「COCOTOMA」オープン

平成27(2015)年

緑ヶ丘公園陸上競技場リニューアルオープン

平成28(2016)年

スポーツ都市宣言50周年 / とましんスタジアムリニューアルオープン / 緑ヶ丘公園庭球場リニューアルオープン

平成29(2017)年

苦小牧市手話言語条例制定 / 日本女性会議2017とまこまい開催

平成30(2018)年

市制施行70周年 / 北海道胆振東部地震発生 / 沼ノ端交流センターオープン

令和元(2019)年

ウトナイ交流センター展望施設オープン / 「とまチョップ水」モンドセレクション2019金賞を受賞 / 苦小牧市受動喫煙防止条例制定

令和2(2020)年

地方版図柄入りナンバープレート「苦小牧ナンバー」交付開始 / 苦小牧中央インターチェンジ開通

令和3(2021)年

苦小牧市こども相談センター開設 / 北海道苦小牧支援学校開設 / ゼロカーボンシティへの挑戦を宣言 / 全国育樹祭開催



1963年 苦小牧港 開港



1800年 八王子千人同心、勇払(鷓川)に移住



1910年 王子製紙苦小牧工場が操業開始



2004年 駒大苦小牧甲子園初優勝



2011年 苦小牧市公式キャラクター「とまチョップ」誕生



2020年 走る広告塔 地方版図柄入りナンバープレート「苦小牧ナンバー」交付開始

